

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：枝澤 真紀

研究分野	研究内容のキーワード	
公衆衛生看護学	高齢者保健、成人保健、母子保健	
学位	最終学歴	
修士（看護学）	大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 研修等での学びを生かして、講義や実習内容に反映させる	2021年4月～現在	2021年4月より、全国保健師教育機関協議会における公衆衛生看護学を教授する教員<ラダー I>研修等を受講し、教育能力の向上に努めている。また、学生の学習状況等を踏まえ、講義や実習内容の改善に向け、指導方法を検討している。
2 作成した教科書、教材		
1. 公衆衛生看護学 第3版	2021年11月	本人担当分：第1部第3章公衆衛生看護の基盤と対象2-2公衆衛生看護における健康レベル（あらゆる状態）と対象とする人々（p.84-96） 編集者：上野昌江、和泉京子 共著者名：上野昌江、和泉京子、吉岡京子、松井菜摘、田口敦子、斉藤恵美子、森田理江、枝澤真紀、三橋美和、吉田裕人、中原洋子、海原律子、足立安正、平野美千代、都築千景、大川聡子、小路浩子、金谷志子、根来佐由美、岡野明美、吉田純子、巽あさみ、安本理沙、郷良淳子、武笠佑紀、新家静、川井太加子、森下安子、佐伯和子、蔭山正子
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 第3期全国保健師教育機関協議会公衆衛生看護学を教授する教員研修修了	2021年8月～2023年3月	一般社団法人全国保健師教育機関協議会が実施した、保健師教育拡充に向けた「2021～2022年度第3期全国保健師教育機関協議会公衆衛生看護学を教授する教員<ラダー I>研修」を修了した。 武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学研究保健師コースの講義・演習科目において、学生への指導方法などに役立てている。
2. 大学院看護学研究科キャリア委員会 委員（武庫川女子大学）	2021年4月～現在	大学院看護学研究科看護学保健師コースに在籍する学生の就職支援として、集団討論の対応を行ったり、国家試験対策として集中講義を担当した。また、個別に国家試験対策のための面談を行い、進捗状況の確認と学生からの質問に対応をしている。
3. 大学院看護学研究科臨地実習委員会 委員（武庫川女子大学）	2021年4月～現在	大学院看護学研究科看護学保健師コースに在籍する学生の実習先で効果的に実習ができるよう受入れ自治体と連絡調整を行ったり、移動手段や宿泊先などで不利益が生じないように配慮を行った。
4. 看護学部FD委員会 委員（武庫川女子大学）	2021年4月～2022年3月	FD委員として、教員と関係機関を対象とした研修会や教員間の学生指導方法に関する研修会を企画し、実施した。
5. 新型インフルエンザ等対策にかかる住民接種実施体制の構築	2019年4月～2021年3月	新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの新規の感染症に対応したワクチンの住民接種を行う実施体制マニュアルの作成、実践に向けて医師会など関係機関との調整を行っている。
6. 新規採用保健師に対する指導	2019年4月～2020年3月	新規採用保健師ヘブリセプター保健師として、地区でのケースワーク・対応困難事例の方針・対応についての助言・同伴訪問等のサポートを行った。
7. 大学や大学専攻科から受け入れた保健師の実習生に対する指導	2018年6月～2019年10月	保健師の実習生への実習指導担当として、事前実習内容打ち合わせ・実習スケジュールの企画、庁内機関との調整から保健事業参加・家庭訪問・健康教育の指導、地域診断の指導、個別支援から集団支援につながるための保健師の活動についての教育、実習記録の指導、学生カンファレンスの参加等、全体を通して実習

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
8. 地域住民への健康教育の実践	2018年1月	指導を担当した。 市の第2期健康増進計画策定にあたり、アンケートから市民の飲酒量が多いことが明らかになったため、健康教室として、市内にある酒蔵と連携し、アルコール分解能力に関する知識、塩分量などに配慮したおつまみの取り方などの啓発を行った。
9. 地域住民への保健活動の実践	2016年4月～2021年3月	母子保健分野では、個別支援や保健師のチームアプローチについて、妊婦、発達面で課題のある児と家族、虐待のリスクがある家庭の支援方針やリスクマネジメントを家庭訪問や相談業務、事例検討会を通して実践を積み上げた。予防接種・感染症啓発については、感染症の流行状況を踏まえた予防対策の啓発、電話での健康相談の場でも、正しい情報提供を行い、住民の健康管理に対する意識向上に努めた。
10. 看護学部の特設科目（公衆衛生看護学Ⅰ・Ⅱ）におけるティーチングアシスタント	2015年6月～2015年7月	ティーチングアシスタントとして、大阪府立大学看護学部において家庭訪問及び健康教育作成演習に関する学生への助言を行った。
11. 看護学部の一般教養科目（初年次ゼミナール）におけるティーチングアシスタント	2015年4月～2015年7月	ティーチングアシスタントとして、大阪府立大学1年次教養科目において、地域のアセスメント方法に関する学生への助言を行った。
4 その他		
1. 学生委員（武庫川女子大学）	2022年4月～2023年3月	学生同士や学生と教員間で交流ができるよう学生幹事懇談会を企画・実施した。
2. GISの活用トレーニング基礎編修了	2021年8月27日	一般社団法人地理情報システム学会GIS認定協会主催の教育認定を受けた「ArcGIS Pro：基本操作」の受講を修了した。（コース番号：ET24, 教育時間数：18時間） 武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学研究保健師コースの講義や実習ではGISを用いた地域診断に取り組んでいる。操作指導に加え、データを可視化することで、地域の健康課題の明確化に役立てている。
3. GISの活用トレーニング入門編修了	2021年8月24日	一般社団法人地理情報システム学会GIS認定協会主催の教育認定を受けた「はじめよう！Arc GIS」の受講を修了した。（コース番号：ET27, 教育時間数：6時間） 武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学研究保健師コースの講義や実習ではGISを用いた地域診断に取り組んでいる。操作指導に加え、データを可視化することで、地域の健康課題の明確化に役立てている。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師	2014年4月21日	
2. 看護師	2014年4月21日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 令和5年度西宮市新任保健師研修会フィードバック研修講師	2024年3月11日	西宮市の新任保健師が取り組んだ地域診断で得られた健康課題の解決に向けた保健活動展開の発表会の講師を務めた。
2. 2023年度公衆衛生看護学実習指導者連絡会	2023年12月11日	兵庫県看護系大学協議会公衆衛生看護学実習委員会の委員として、公衆衛生看護学実習指導者連絡会を当番校として企画運営に関わった。
3. 兵庫県 2022年度地域ケアの総合調整研修事業の課題研修 講師補助	2022年12月	兵庫県の2022年度地域ケアの総合調整研修事業の課題研修会において講師補助を務めた。
4. 兵庫県西宮市 令和4年度 第1階地域の理解を進めるための専門職向け研修会 講師補助	2022年	兵庫県西宮が開催した令和4年度第1階地域の理解を進めるための専門職向け研修会において講師補助を務めた。
5. 兵庫県西宮市 令和3年度 地域の理解を進めるため	2021年11月	兵庫県西宮市が開催した令和3年度地域の理解を進め

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
の専門職向け研修会 ファシリテーター 6. 兵庫県 令和3年度保健師現任教育計画作成及びプリセプター研修会 ファシリテーター	2021年	るための専門職向け研修会において、ファシリテーターを務めた。 兵庫県が開催した令和3年度保健師現任教育計画作成及びプリセプター研修会において、ファシリテーターを担当した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 高齢者サロンに來所した地域在住高齢者の見守りサービスへの意識と利用意向	単	2016年3月	大阪府立大学大学院	地域において高齢者の異変を早期に発見できる見守りシステムの構築が求められていることから、見守りサービスの利用を活性化し、見守りのある地域づくりを目指すため、地域在住高齢者の見守りサービスへの意識及び利用意向の実態とサービス利用に関連する要因を明らかにすることを目的とした。高齢者サロンに來所した65歳以上の高齢者を対象に基本属性、見守りの意識・サービスの利用状況（機器・地域住民などの人的な見守り）、身体的健康状態、近所づきあいなどの社会的状況等のアンケート調査を行った。対象者の過半数が緊急通報装置の利用又は利用を希望していた。また、サービス利用者は身体面において不安がある人が多かったため、機器と人的見守りのサービスを組み合わせて利用することや高齢者の加齢に伴う身体的変化等の身体的機能に着目する必要性が示唆された。
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Description of Activities of an Elderly Voluntary Exercise Group During the COVID-19 Pandemic: Evaluation of the Activity Process	共	2024年3月	the 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS): 香港	
2. The association between caregiver burden and family caregiver health	共	2024年3月	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024)	超高齢社会である日本において、要介護者の増加に伴い隠れた患者と言われる家族介護者が増加している。本研究の目的は、家族介護者の介護負担感と健康状態の関連を明らかにし、家族介護者の健康づくりの支援のあり方を検討することである。 特に介護負担感の高い群にはうつ傾向や自身の健康に気を配る余裕のない者などの割合が高く、多くの時間を介護に費やし、自身の健康に目を向ける余裕がないことが推測される。家族介護者には、年齢や経済状況、介護負担感をふまえた生活習慣病や介護予防に向けた健康支援が必要であると考えられる。 本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：和泉京子、金谷志子、松井菜摘、枝澤真紀
3. Decisions and Barriers Related to Human Papillomavirus Vaccination Among Students at a Women's University in	共	2024年3月	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024)	本研究の目的は、制度の対象である女子大学生のHPVワクチンの接種行動の状況と課題を明らかにすることである。 ワクチンの接種行動の状況で、ワクチン接種を決めるまでのプロセスとして4つのカテゴリがあげられた。子宮頸がん予防行動の知識・情報の取得、子宮頸がんに関する認識、何でも話せる友人の存在、ワクチン接種に影響する家族の考えである。4つのカテゴリが女子大学生のHPVワクチンの接種意思の決定に影響を与えていた。特に、母親の考えや友人の勧めが女子大学生の接種意思に影響を与え

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
Japan				
4. 母子健康手帳交付時に来所した父親の来所動機と育児参加意欲	共	2024年1月	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会（北九州）	<p>ていた。また、女子大学生は母親や友人に相談する前に、情報を吟味・理解した上で接種の意思を概ね決めていた。そのうえで、家族とコミュニケーションをとり、意思を確定していた。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：枝澤真紀、金谷志子、和泉京子</p> <p>本研究の目的は、母子健康手帳(以下、母子手帳)交付時に来所した父親の来所動機と育児参加意欲を明らかにし、子育て世帯への支援のあり方を検討することである。</p> <p>第1子の父親は、妊娠・育児の情報を知りたいという理由で来所している人が多かったことから、母子手帳発行時の面接では母親を中心に話を進めるのではなく、父親にも積極的に働きかける必要があると考える。また、母子手帳発行時に来所した父親は育児に積極的に参加したいという気持ちがあったことから、保健師は育児手技や産後うつといった父母の心理的变化等の情報を掲載した媒体の配布や、父親が育児について学び、交流する機会の提供等により、育児に取り組みやすい環境づくりを行う必要があると考える。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可 共同発表者：上野輝実、尾原ゆり子、岡田七海、松井菜摘、和泉京子、枝澤真紀</p>
5. 高齢者対象の西宮市健康ポイント事業の事前評価(第2報) 運動習慣と準備状況の特徴	共	2023年11月	第82回日本公衆衛生学会総会(つくば)	<p>西宮市で2021年度から介護予防と健康寿命の延伸を目的として取り組んでいる、高齢者を対象にした健康ポイント事業の参加者の運動習慣と準備状況を評価することを目的とした。</p> <p>本事業参加者は日常の身体活動が1時間未満の者が6割で、運動習慣がない者が男女とも25%と運動習慣がない者が半数を占めていた。また、運動に関する関心を持ち、運動習慣の改善に取り組む意向を示す者が半数であり、本事業が予防行動の契機となることが期待される。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：金谷志子、小坂かおり、吉本果、向井沙織、福田典子、和泉京子、松井菜摘、枝澤真紀</p>
6. 高齢者対象の西宮市健康ポイント事業の事前評価(第1報) 事業参加者の健康状態の特徴	共	2023年11月	第82回日本公衆衛生学会総会(つくば)	<p>西宮市が2021年度から実施している健康ポイント事業(以下、事業)の参加者の健康状態を評価することを目的としている。</p> <p>インセンティブ付き保健事業の参加者は他の高齢者保健事業と比べ、男性の参加割合が高く、男性の保健事業参加の契機となると考える。本事業参加者は主観的健康感が高く、フレイル評価の低い集団であり、参加目標は良好な健康状態を維持することであると考える。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：小坂かおり、吉本果、向井沙織、福田典子、和泉京子、金谷志子、松井菜摘、枝澤真紀</p>
7. 在宅医療・介護連携推進事業を活用したコロナ禍の命を守る取り組み	共	2022年12月	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会(仙台)	<p>大阪市旭区の在宅療養者を適切な医療につなげ重症化を防ぎ、命を守ることを目的とし、在宅医療・介護連携推進事業の仕組みを活用した「旭区コロナ地域支えあい訪問事業」の事業化を行ったので報告した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の在宅療養者へ介入している訪問系介護事業所が少ない。介護が必要な在宅療養者が住み慣れた自宅で療養生活を続けるには、訪問系介護事業所の介入が不可欠である。必要時には訪問系介護事業所と訪問看護師が同時訪問できる体制を整備する。また、本事業に協力的な医療機関は限られているため、医療機関へのさらなる周知を行う。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：尾原ゆり子、上野輝実、和泉京子、枝澤真紀、松井菜摘</p>
8. 母子健康手帳交付時のペア来所と産後における父の育児参加や母の育児状況・健康状態との関連	共	2022年12月	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会(仙台)	<p>子育て世帯と関わる最初の機会である母子健康手帳(以下、母子手帳)交付時の父の同行(以下、ペア来所)と、産後における父の育児参加や母の育児状況・健康状態の関連を明らかにすることを目的とした研究である。</p> <p>母子手帳交付時にペア来所していても、必ずしも父は産後の育児に十分参加しているわけではなく、積極的に育児に取り組めるよう</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
9. 保育所及び認定こども園等に勤務する看護職の保育保健活動の実態	共	2022年12月	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会（仙台）	<p>支援することの重要性が示唆された。特に高齢初産婦は、ペア来所している人の方が産後のネガティブな感情が起こりやすく、母の気持ちを支えるために父ができることを保健師が伝える必要があると考えられる。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：上野輝実、尾原ゆり子、松井菜摘、和泉京子、枝澤真紀</p> <p>保育所及び認定こども園等に勤務する看護職の保育保健活動の実態を明らかにすることを目的とした研究である。</p> <p>看護職配置のある就学前施設においても、雇用形態や保育所等経験年数によって、地域において支援が必要な気になる子どもや被虐待児、医療的ケア児への対応や保護者支援、関係機関連携の担当の有無に違いがあった。妊娠からの切れ目のない支援には、行政の保健師が就学前施設の状況を把握し支援を検討する必要があると考える。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：北山富子、和泉京子、金谷志子、枝澤真紀</p>
10. 家族介護者の健康支援家庭訪問の評価 第2報 保健師による健康支援の短期評価	共	2022年8月	第25回地域看護学会学術集会（富山）	<p>家族介護者へ健康支援の家庭訪問（以下訪問）を実施し、その評価をすることより、家族介護者への生活習慣病予防に向けた支援のあり方を検討することを目的とした研究である。</p> <p>家庭訪問による健康支援により体調不良の改善や健診受診行動、生活習慣の改善に一定の効果があつたことが明らかになった。今回は短期評価であり、改善された健康行動が長期に維持できるかは明らかではない。健康行動が改善・維持できるように継続的な支援が望まれる。要介護者へのケアマネジャーの定期的な訪問等の際に家族介護者への健康の気遣いと健診受診案内、生活習慣病改善の情報提供等の必要性があると考えられる。</p> <p>本人担当分：共同研究により抽出不可能 共同発表者：金谷志子、和泉京子、松井菜摘、枝澤真紀</p>
11. 家族介護者の健康支援家庭訪問の評価 第1報 家族介護者の健康状態と健康行動	共	2022年8月	第25回地域看護学会学術集会（富山）	<p>家庭訪問により、隠れた患者と言われる家族介護者の健康状態と健康行動を明らかにし、家族介護者への生活習慣病予防支援のあり方を検討することを目的とした研究である。</p> <p>体調不良や高血圧に性別や年齢区分による差は見られず、性や年齢に関わらず健康支援の必要性が示唆された。健診受診や生活習慣の支援が必要な者が多く、要介護者に加え家族介護者への健康支援を行うことは介護予防につながると考える。特に体調不良のある者へは睡眠や休養の状況把握と介護負担軽減に向けた支援が必要と考える。</p> <p>本人担当分：共同研究につき抽出不可能 共同発表者：和泉京子、金谷志子、松井菜摘、枝澤真紀</p>
12. 高齢者サロンに来所した地域在住高齢者の見守りサービスへの意識と利用意向	共	2016年11月	第75回日本公衆衛生学会総会、大阪	<p>地域において高齢者の異変を早期に見守りできる見守りシステムの構築が求められていることから、見守りサービスの利用を活性化し、見守りのある地域づくりを目指すため、地域在住高齢者の見守りサービスへの意識及び利用意向の実態とサービス利用に関連する要因を明らかにすることを目的とした。高齢者サロンに来所した65歳以上の高齢者を対象に基本属性、見守りの意識・サービスの利用状況（機器・地域住民などの人的見守り）、身体的健康状態、近所づきあいなどの社会的状況等のアンケート調査を行った。対象者の過半数が緊急通報装置の利用又は利用を希望していた。また、サービス利用者は身体面において不安がある人が多かつたため、機器と人的見守りのサービスを組み合わせて利用することや高齢者の加齢に伴う身体的変化等の身体的機能に着目する必要性が示唆された。</p> <p>共同発表者：枝澤真紀、上野昌江、大川聡子担当部分：研究全般を中心となり実施した。</p>
13. 独居高齢者の緊急時に対する備えと工夫-緊急通報システム登	共	2015年1月	第3回日本公衆衛生看護学会学術集会、兵庫	<p>緊急通報システムに登録している独居高齢者の緊急時への備えと工夫の実態を明らかにするため、緊急通報システムに登録している独居高齢者を対象に、家庭訪問にて、身体的状況、近所づきあいな</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
録者に着目して-				
14. 緊急通報システム登録者の特徴とニーズの実態	共	2014年11月	第73回日本公衆衛生学会総会、栃木	<p>どの社会的状況、システム利用状況、利用に対する考え等の聞き取り調査を行った。登録者は健康と感じている者が多数であるが、健康面に心配を抱えており、緊急時の対応について関心が高く自分なりに緊急時の工夫をしていた。今回の調査結果から独居高齢者は普段から家族や近隣住民のサポートを受け生活を送っているため、人とかかわりが途切れないようゆるやかな見守りを継続する必要性があると考えられる。共同発表者：枝澤真紀、長尾美波、根来佐由美、上野昌江担当部分：データ収集、分析を担当した。</p> <p>緊急通報システム登録者の特徴やニーズの実態を明らかにし、実情に応じた緊急通報システムのあり方を検討するため、緊急通報システム登録者に家庭訪問にて、要介護認定の有無、家族との連絡状況、緊急通報システムの設置場所・使用経験・要望、緊急時に備えた工夫点等などの聞き取り調査を行った。緊急通報システムの使用経験者は緊急時に備え工夫をしていたが、不安や利便性に関する要望もあることから、緊急通報システムは高齢者のニーズを満たしておらず、システム改良の必要性が示唆された。共同発表者：根来佐由美、上野昌江、枝澤真紀、長尾美波担当部分：データ収集、分析を担当した。</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 思春期の子と親のHPVワクチン躊躇とワクチン接種意思決定支援方略の開発と効果評価	共	2024年～	文部科学省(科学研究費補助金 基盤研究(C))	研究代表者：枝澤真紀
2. 社会経済格差をふまえた保険者別向老期における孤立予防の地域デビュー促進の実装研究	共	2023年～	文部科学省(科学研究費補助金 基盤研究(C))	研究代表者：和泉京子、研究分担者：枝澤真紀
3. フレイル予防のための住民主導型地域活動の持続可能な活動モデルの開発	共	2021年～	文部科学省(科学研究費補助金 基盤研究(C))	研究代表者：金谷志子、共同研究者：枝澤真紀
4. 家族介護者への生活習慣病・介護予防のための健康把握とKDBシステムによる支援評価	共	2018年～	文部科学省(科学研究費補助金 基盤研究(C))2018年度～2023年度	研究代表者：和泉京子、共同研究者：枝澤真紀

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2023年4月1日～2025年3月31日	西宮市介護認定審査会委員
2. 2023年4月1日～現在	日本母性衛生学会
3. 2023年4月～現在	日本母性衛生学会
4. 2022年11月	鳴尾地区連合自治会婦人部研修会 担当
5. 2021年5月～2022年8月	西宮市保健所業務支援活動
6. 2021年4月～現在	まちの保健室プロジェクトメンバー
7. 2021年4月～現在	大阪市旭区母子保健事業検討会 助言者
8. 2019年～現在	地域看護学会
9. 2014年～現在	日本公衆衛生看護学会
10. 2014年～現在	日本公衆衛生学会